

2017年2月4日 あおぞら財団 谷内 久美子

生活の中に防災を取りこみましょう

- ・地域の避難訓練への参加
- •近所づきあい: おたがいさま
- •家族の行き先 居場所の確認
- ・散歩、徒歩での買い物
 - 避難場所、避難経路の確認
- •住居内の整理 整頓
 - 落下物の防止や避難路確保
- •食料 生活用品の備蓄
 - スーパーやコンビニに物がない
 - ・2週間分の食料の備蓄。





災害を どのように とらえていますか?





災害を「<u>生活の一部</u>」として考える → 普段から備えることができる

2



避難とは?

- 災害から命を守るための 行動。
- ・避難所への避難だけでなく、家屋内に留まって安全を確保することも「避難行動」





自分の身を守ることは、他の人のことを助けることにも



避難の三原則



- 想定にとらわれるな
 - 相手は自然、どんなことが起こるかわからない。
 - 想定に頼らずに、自ら自然に向き合って判断する。



・最善を尽くせ

- 事前に決めた避難方法だけにとらわれずに、そのときに考えられる一番安全な行動をとろう



- 率先避難者たれ

- 誰かが避難し始めると他の人はそれにつられて避難 を始める。
- みんなを守るためにまずは自分から避難しよう。

参考文献:片田敏孝『人が死なない防災』、集英社新書、2012年



あおぞら財団の防災教育の取り組み

災害記憶の収集と伝承	•	水害に関する災害記憶の収集 災害記憶を伝える冊子の作成 災害記憶のお話会の実施
子どもに防災を教える	•	小学生を対象にした防災絵本 の作成 防災絵本を活用した小学校で の授業
災害時の援護者教育プログラム	•	要援護者を支援できる人々の 育成プログラムの実施



防災で大事なことは「わがこと意識」

- •「この地域には災害がおこりうる」「自分も被災者になりうる」という意識
- ・災害を「わがこと」としてとらえていないとた だの作業になってしまう
- •「わがこと意識」を育むには
 - ・ 過去の災害の記憶の伝承が有効
 - 災害を身近に。土地固有の弱点の把握
 - ・地域の課題に即した避難訓練



わがこと意識をはぐくむ防災教育



災害記憶の収集と伝承①

・28名の方に過去の災害に ついての聞き取り調査





災害記憶の収集と伝承②

•小冊子「西淀川の災害記憶に学ぶ」の作成





子どもに防災を教える

- •子育てサークルなどでのお話会の実施
- •防災絵本「西淀川にたいふうがきた」







子どもに防災を教える②

•小学校で防災絵本を活用した防災授業の実施







災害時の援護者教育プログラム①

・災害時の援護者教育セミナーの実施







災害時の援護者教育プログラム②

・避難訓練への協力







災害時の援護者教育プログラム③

•福祉避難所の開設訓練への協力







災害時の援護者教育プログラム④

・小冊子「防災まちづくり通信」の発行





- •生活の中で防災に取りこみましょう
- •避難とは災害から命を守るための行動
- •災害の「わがこと」意識をはぐくむ
- •あおぞら財団の防災教育の取り組み
 - 災害記憶の収集と伝承
 - •子どもに防災を教える
 - 災害時の援護者教育プログラム